

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	小野 正子	職名	准教授	学位	修士 (看護学) (Oregon Health Sciences University 2002 年)
----	-------	----	-----	----	---

研 究 分 野	研究内容のキーワード
小児看護学	小児慢性疾患 看護用語 (臨床)

研 究 課 題
慢性疾患をもつ小児およびその家族の看護について考察する。 小児看護学の教育方法について考察する。 臨床で使用する看護の言葉について考察する。

担 当 授 業 科 目
小児看護学概論 (前期) 必須 小児看護方法論 (後期) 必須 小児看護学演習 (前期) 必須 看護研究 (前期) 必須 緩和・終末期看護学 (前期) 必須 助産診断・ケア学IV (新生児・乳幼児) (前期) (助産別科) 必須 小児看護学実習 (通年) 必須 看護総合演習 (通年) 必須 看護総合実習 (通年) 必須 看護学 (後期) 栄養学科 選択

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 小児看護学概論 】</p> <p>小児看護の対象である子どもや家族の理解を科目目標の大きな柱としている。少子化の時代で、なかなか子どもに接する機会の少ない学生に出来るだけ子どもをイメージしやすいようにビデオや DVD 等の 視聴覚教材を活用した。また、実際の社会の中で子どもがおかれている状況を、子どもの健康という視点で考えられるよう、雑誌・記事の中から探させ、グループ討議を行い自分の考えを発表する機会を設けた。</p>
<p>授業科目名【 小児看護方法論 】</p> <p>この科目は、健康障害をもった子ども現状や看護の考え方、方法を理解できるように1年次から学んできた形態機能の復習を取り入れながら授業を進めた。また健康障害をもった子どもや看護をイメージしやすいように、ビデオや写真、実物などを見せること等で、学生が理解しやすいよう工夫した。</p>
<p>授業科目名【 小児看護学演習 】</p> <p>演習では、実習で活用できるよう事例検討と技術演習を中心に行った。事例検討では、乳児、幼児期の各発達段階の子どもを対象として、臨地実習で学生が遭遇することの多い症例 (国家試験にもよく出題される疾患) を用いて看護過程の展開を行った。また、全員がグループワークに参加できるように少人数のグループで進めることにした。はじめに全員で事例の見方、アセスメントの仕方を一通り確認した後、グループワークのメンバーで別の事例を考えていくようにした。また、グループで検討しているファイルを提出し、その都度コメントを返しながらか指導を行った。技術演習においては、実際の実習場面を想定できるような設定をし、技術の習得が確認できるよう技術試験を行った。習得ができていない学生については、全員一定レベルに到達するまで個別指導を行った。</p>

授業科目名【 小児看護学実習 】

病棟実習では、既習の知識・技術・態度が、実際の患児・家族を通して統合されるように関わった。また、助教の先生方の学生への指導が的確に行われるように、日々の報告やカンファレンス、個人面接を通して相談、検討を行い学生への指導に繋がるように調整を行った。また、必要時病院・病棟側とも調整を図った。

授業科目名【 看護総合演習・実習 】

看護総合演習では、小児看護学領域を担当し7名の学生を受け持った。看護総合演習に引き続き、看護総合実習が実施されるため、自分自身の目標・テーマを実習に連動できるように指導した。演習の目的としては、小児看護の理解を深めるとともに、実習前準備として、実習場で必要とされる知識・技術の振り返りと、自分の選んだテーマに関する文献検索・検討を行いレポートとしてまとめることで、看護を実践するための基盤づくりを行った。演習の中には、地域での小児救急のワークショップに参加したり、学内での3年生の技術演習に参加してもらい、自分たちの技術の振り返りと確認に役立つよう工夫した。演習の進め方としては実習場別のグループ毎に自主的に計画をたてて進めた。また、実習終了後は、各自のテーマに基づいて作成していた事前のレポートを追加修正したものを、ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで、各自の看護観を深めることができるように工夫した。

看護総合実習は、大学での最後の実習であり、学生自身が臨地の指導者とのミーティングやカンファレンスを通して実習前・中・後と実習内容を検討しながら、基本的に学生主体による実習展開ができるように調整した。また、実習記録用紙や評価表も自分たちの目標に沿ったものを各グループ（病棟毎）で作成し、目標の達成度が確認出来るようにした。

授業科目名【 看護研究の基礎 】

看護研究の一連の流れを理解し、自身のリサーチクエストンを解決するための研究方法を探求し、合理的に計画できることを目標に、1グループ6から7人の学生を、担当教員6人で2から3グループを担当した。研究実施においては、与えられた課題（自分たちの興味のあるテーマ）に沿って学生はグループ内で自主的に話し合い協力して与えられた時間内にまとめられるよう計画的に実施した。また担当教員は必要時アドバイスを行い、基礎的な研究プロセスが理解できるよう支援した。

授業科目名【 看護学 栄養学科 】

栄養学科3年生における選択科目で、専門基礎分野（社会環境と健康）の中の科目である。今回は科目履修者が4人と少人数での授業となったが、少人数のメリットを活かし自分の意見を自由に発言できる機会を提供できるよう配慮した。また、看護の対象・場の特徴から、小児、成人、老年、地域での看護教員5人でオムニバス形式での授業を行い、それぞれの領域の中で管理栄養士等が関わる疾患・生活状況を事例を用いながら具体的に人間や生活について理解を深め、社会や環境と健康とのかかわりについて考えられるよう工夫した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		1976年4月～1985年、1989年～現在に至る
日本看護科学学会会員		1993年～現在に至る
日本小児保健協会会員		1993年～現在に至る
日本学校保健学会会員		1995年～現在に至る
聖路加看護学会会員		1996年～現在に至る
日本看護学教育学会会員		1998年～現在に至る
日本小児看護学会会員		2002年～現在に至る
九州小児看護教育学研究会	幹事（2003年～現在に至る）	2001年～現在に至る

2019年度 研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文) 1. 実践医療用語の語構成要素－意味を基準とした分割	共著	2019年12月	情報処理学会シンポジウムシリーズ Vol.2019.No.1.人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 p.57-64.	全8頁 相良かおる, 山崎誠, 麻子軒, 東条佳奈, 小野正子, 内山清子 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyo の見出し語から一般的な語を含む合成語 7,194 語を選定し、これらの語構成を明らかにしている。
(翻訳)				
(学会発表) 2. 実践医療用語の語構成への分割と意味ラベル付与  3. 実践医療用語の語構造に関する考察－医療記録に含まれる合成語の妥当な細分割を目指して－	共著  共著	2019年6月  2019年11月	言語資源活用コーパスワークショップ発表論文集 (LRW2019),pp.161-168  第20回日本医療情報学会学術大会 39th JCFMI(Nov.2019) pp.698-701	全8頁 山崎誠、相良かおる、小野正子、東条佳奈、麻子軒 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyo の見出し語から『分類語彙表 増補改訂版』に収録されている語を含む合成語 1,000 語を抽出し、語構成要素に分割し、意味ラベルを付与し、意味ラベルによる語構成のパターンを調査している。  全4頁 相良かおる、小野正子、山崎誠 本稿では、実践医療用語辞書 ComeJisyo の見出し語から『分類語彙表 増補改訂版』に収録されている語を含む合成語 2,771 語について、語構成要素への分割を行い、語構成要素に付与した意味ラベルの解析を行っている。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
語形成および意味的情報を付加した実践医療用語辞書の構築	文部科学省 科学研究費補助金（基盤研究(B)）	○相良かおる、小野正子（山崎誠、東条佳奈、内山清子）	2019年度 3,900千円 (直接経費: 3,000千円、間接経費: 900千円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
北九州市小児慢性特定疾病対策協議会	委員	2015年4月～ 現在に至る
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2015年4月～ 現在に至る

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

大学委員会：研究紀要委員
学科役割：1年生アドバイザー
物品管理係